

世界の外貨準備の通貨構成から見えること

今年第一四半期末の世界の外貨準備における通貨構成が IMF から発表された。そこから読み取れる点を列挙する。

1. ドルの割合（61.99%）は前期よりも1%も増加した。長期低減傾向が続いていたドルだが、その傾向に歯止めがかかったように見える。だがこの理由は新型コロナウイルスの感染拡大による世界的なドル需要の急激な高まりを反映していると考えられる。第二四半期もこうした傾向は続くだろうが、各国中銀とのスワップ協定での FED のドル資金供給などによりドル不足は解消に向かっている。その点ではドルの需要の増加は一時的な可能性が高く、再び長期低減傾向に戻ると考えられる。
2. ユーロの割合（20.05%）は前期よりも低下したが、これはドルへのシフトが主因と考えられる。ドルに次ぐ通貨のユーロはドルの割合の増減の影響を最も強く受ける。17年の第三四半期から20%台に乗ったわけだが、今回も20%台は維持していることからユーロ自身の要因からの減少ではないと考えられる。
3. 人民元は16年第四四半期から通貨構成が明らかになったが、以来1%台が続き、今回初めて2%台（2.02%）に乗った。増加傾向にはあるが、全体での割合は依然として小さい。これは資本取引規制など人民元の自由化の進展が遅々としている点による。
4. 円の割合（5.70%）は前期と同じ水準にあり、これまでの増加傾向を維持していると考えられる。今回はドル以外の通貨はすべて減少しており、円の堅調さが際立つ。円に対しては国際分散投資の中で一定の需要が状況如何にかかわらずあるように見える。もちろん今回はリスクオフ取引が増える中で安全通貨としての役割があったことは確かだ。
5. ポンドの割合（4.43%）は前期に比べて減少した。中期的に見ても頭打ちあるいは微減の傾向にある。BREXIT の影響があることは確実だ。

6. オーストラリアドルの割合（１．５５％）は減少した。安定した割合を保ってきたが、今回は最も低い水準に低下した。初めての景気後退や中国との摩擦が影響していると思われる。
7. カナダドル（１．７８％）、その他通貨（２．３３％）は若干の減少傾向にある。スイスフランの割合は０．１５％と小さく、低位安定している。かつての主要通貨もその他通貨に含めてもいいほどの割合だ。

以上です。